

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：33801

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02049

研究課題名（和文）中国シルクロード域における開発環境史

研究課題名（英文）The History of Development and Environment in Chinese Silk Road

研究代表者

山本 早苗（Yamamoto, Sanae）

常葉大学・社会環境学部・教授

研究者番号：40441175

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、国家プロジェクトの開発拠点として位置づけられ大きく変貌し続ける中国シルクロード域の開発環境史を明らかにすることを目的とする。具体的には、環境問題と貧困問題が最も深刻な甘粛省を事例に、史上最大規模の国家開発（西部開発、一帯一路政策）と環境再生事業を通じた地域社会の再編過程を社会学的に解明した。これを明らかにすることを通じて、グローバル化を背景に大きく転換しつつある現代中国における地域社会のダイナミズムを捉えることが可能になる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、中国シルクロード域に着目することにより、大規模な地政学的変動を背景にした地域社会の再編過程を分析することが可能になる。これまででない新たな社会秩序がいかに形成されているかの一端を提示する。また、シルクロード域に固有の環境利用や環境認識を明らかにするとともに、未曾有の大規模な国家開発による環境問題の発生メカニズムを解明し、シルクロード域における人と自然との相互作用の歴史を通時的に理解することが可能になる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to clarify the history of the development and environment of the Chinese Silk Road region, which is positioned as a development base for national projects and continues to undergo major changes. Specifically, based on field research in Gansu Province, where environmental and poverty issues are the most serious, the author analyzes the process of reorganization of local communities through the largest-scale national development in history (Western Development, One Belt, One Road Policy) and environmental regeneration projects. elucidate sociologically. By clarifying this, it will be possible to grasp the dynamism of local society in contemporary China, which is undergoing major changes against the backdrop of globalization.

研究分野：社会学

キーワード：新シルクロード 環境史 一帯一路 西部大開発 環境認識 ライフヒストリー ツーリズム 農村開発

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 中国シルクロード域における開発環境史

常葉大学 社会環境学部 山本早苗

### 1. 研究開始当初の背景

近年、中国は、経済大国として国際的な発言力を高める一方で、領土や資源開発をめぐって諸外国と安全保障上の問題を抱え、国内には社会的格差や民族問題、相次ぐ大規模災害と環境破壊など深刻な社会問題を数多く抱えている。これら社会的矛盾を解決するための新たな中国の国家戦略として、西部大開発を展開させた「一帯一路」政策が実施されている。これは中国と西アジア諸国や EU 諸国をつなぐ経済ベルト(一帯)としてシルクロード域を再編するとともに、中国沿岸部から東南アジア、アラビア半島、アフリカ東岸をつなぐ新たな海上シルクロード(一路)を建設しようとする一大国家プロジェクトである。史上最大規模の国家開発は、中国シルクロード域にいかなる影響を及ぼし、地域社会はどのように再編されているのだろうか。

西部大開発や一帯一路政策については、おもに開発によるインフラ等のハード面での経済効果が明らかにされてきた。その一方で、開発に伴う環境問題や民族問題の深刻化、地域社会の社会的不平等の問題も明らかになってきている。従来の一枚岩的な中国社会像では捉えきれない多様な地域社会の姿を解明し、開発と環境保全の両立が喫緊の課題とされている。

申請者は、開発拠点でありながら過酷な環境ゆえに、これまで研究蓄積が少なかった甘粛省をフィールドに、西部大開発が地域社会や自然環境に及ぼす影響について分析してきた。これまでの研究では、開発政策が、地域間格差と地域内格差を拡大させ、地域の資源利用システムが大きく再編された結果、地域社会の持続可能性が著しく低下していることを明らかにしてきた。本研究では、マクロな社会構造と地域社会との相互作用を分析し、通時的な開発環境史を描き出すことにより、大きく転換している中国シルクロード域における地域社会のダイナミズムを捉えることを目指す。

### 2. 研究の目的

本研究では、国家プロジェクトの開発拠点として位置づけられ大きく変貌し続ける中国シルクロード域の開発環境史を明らかにすることを目的とする。具体的には、環境問題と貧困問題が最も深刻な甘粛省を主要なフィールドとして、大規模な国家開発(農村開発)と環境再生事業を通じた地域社会の再編過程を社会的に解明する。これを明らかにすることを通じて、グローバル化を背景に大きく変貌を遂げている現代中国における地域社会のダイナミズムを理解することが可能になると考える。

### 3. 研究の方法

本研究では、おもにフィールド調査を実施する予定であった。しかし、2018~2019年度は、申請者の産休・育休により研究を中断しており、研究再開後の2020年度以降は、新型コロナウイルスによる世界的感染拡大を受け、海外渡航を中止せざるを得なくなった。当初予定していた研究計画を大幅に見直さざるを得ず、おもに文献・資料調査に基づいた調査計

画に変更するとともに、すでに実施していたインタビュー調査データの再分析及びドキュメンタリー等の映像分析も組み合わせて実施することとした。さらに、これまで十分に収集できていなかった中国の年鑑や統計、各種報告書等も体系的に収集し、整理・分析することとした。

#### 4．研究成果

本研究は、甘粛省を主要なフィールドとして、中国シルクロード域の大規模な国家開発(農村開発)と環境再生プロジェクトによる地域社会の再編過程を明らかにすることを目的とする。毎年度、研究課題を設定し、資料収集と国内における文献研究と調査データの集約・分析を行った。開発拠点である甘粛省蘭州市と定西市を中心にしつつ、調査対象者の出稼ぎ先である陝西省西安市と新疆ウイグル自治区ハミ市に関する資料収集を行った。

2020～2021年度は、農村開発が地域社会にいかに関与され、地域住民が、どのように開発プロジェクトを担い、国家開発と環境保全の矛盾にいかに対応しているのかを解明した。第二期西部大開発と一帯一路政策以降の農地開発と水資源開発の統計データや報告書を収集し、農地建設(梯田建設)と地下水開発を事例に、農村開発による生活構造の変化について分析を行った。

2022年度は、ローカルな草の根レベルでの景観保全や環境再生事業の展開過程を分析し、ローカルな環境利用の変化と持続可能な資源利用のしくみを明らかにした。甘粛省では、農村開発において災害対策や環境保全に配慮したツーリズムの推進など環境再生事業が活発に行われている。梯田(段々畑)建設により土壌浸食を防ぎ、農村景観を新たな観光資源として開発し、エコツーリズムや流域保全に取り組んでいた。さらに、グローバル市場を活用して中国最大のバラ生産地となり、地域ブランドの開発にも取り組んでいる実態を分析した。

新型コロナ感染拡大により中国に渡航することができなかつたため、フィールド調査に代わり、環境再生事業の統計データや行政資料を収集・整理した。今後、政府機関や住民組織による環境保全体制の変化と水利用・土地利用の経年変化を調べるパネル調査を実施するために、調査項目の整理を行った。

本研究の成果については、2023年6月28日に、ISA(国際社会学会)第20回大会にてオンラインで口頭発表を行った。報告タイトルは、“Sustainable Development Goals and Social Transitions in Terraced Landscapes - A Case Study of Silk Road Area in China- ”である。

#### 5．今後の課題

研究方法の大幅な見直しに伴い、当初計画に組み込んでいたものの、今後の課題となったものが少なからずある。まず、新型コロナ感染拡大により、中国に渡航することができず、調査対象地ではWi-fi設備等も十分に整備されていないためWeb調査の実施も困難であった。そのため、現代中国における大規模な国家開発プロジェクトが地域社会にもたらした矛盾や課題を明らかにし、中国の社会的格差是正に向けて、持続可能な資源利用のしくみや環境保全のあり方について実践的提言を行うことは、今後の課題として積み残さざるを得なかつた。

さらに、現地での資料収集を前提に計画していた開発史の分析についても、今後の課題となった。西部大開発の前史(1950～70年代の公害問題期、1980年代以降の環境破壊の

深刻化)も含めて、これまでの農村開発に関する報告書等の資料収集と地域住民への聞き取り調査(とくに開発当事者と地域の女性を中心としたライフヒストリー調査)の実施、及び当時の日記や写真・記録映像、政府機関による統計資料や行政文書等を収集・分析については、今後の課題となった。これら積み残された課題に継続的に取り組むことにより、今後、多面的に中国シルクロード域の開発環境史を描き出していきたいと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Sanae Yamamoto	4. 巻 1
2. 論文標題 Changing Terraced Landscapes during Chinese Society Transitions: A Case Study of the Western Development in Gansu Province, China	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of the III World Meeting on Terraced Landscapes	6. 最初と最後の頁 193-200
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Sanae Yamamoto
2. 発表標題 Sustainable Development Goals and Social Transitions in Terraced Landscapes - A Case Study of Silk Road Area in China-
3. 学会等名 XX ISA World Congress of Sociology（国際学会）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 環境社会学会	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 742
3. 書名 環境社会学事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------